

学校だより



人生100年時代を生きるみなさんへ

生徒指導専任教諭 佐々木 健

前期定期テストが終わりました。教室ではいつも次のような話をしてから、答案を返却しています。

「今から返す点数は、例えば『国語』というモノサシであなたを測ったら、今回の範囲では50点や70点だったという話。この世の中には、もっと様々な……『優しさ』や『柔軟性』、『粘り強さ』や『知的好奇心』などなど、数字では測れないモノサシがあることは、なんとなく肌で感じてご存じでしょう。多様性が求められる現代に生まれ、22世紀まで生きる皆さんには、そういった目に見えない視点や、数値に置き換えられないチカラも、大切にしてもらいたいです。」

どんな子に、育ててほしいか…。皆さんが生まれた時のことを思い、保護者の皆様の願いを想像しながら、未来に向けて、私たちは授業をしています。

【もしも こんな質問が来たら…お答えします。】

Q. 定期試験の平均点や順位、偏差値を示してほしい。

A. 現在、中学校での学習評価は、「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」となっています。文部科学省で定めた学習内容をどの程度理解し身につけているかを、「観点別学習状況の評価」と、それをもとにした「評定」のふたつで表します。定期試験の順位や偏差値を基準として評価を行っているのではなく、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価するものであり、「観点別学習状況の評価」を基本として、生徒の学習の到達度を評価しています。したがって、定期試験の平均点や順位、偏差値などを提示することはありません。また、定期試験の結果だけでなく、日頃のレポートや実習課題・小テスト・技能テストなどの資料から、多角的に評価を行っています。授業形態もグループワークなどの場面を増やし、互いに教えあい、学びあえる、主体的な学びにつながるよう工夫しています。

ちなみに、評価の記号「B」は、言葉に置き換えると、「おおむね満足できる状況」です。連絡票にも見方の説明がありますので、ご確認ください。

Q. 面談期間などの「再登校」が負担…夏など、遠い自宅に戻りまた出かけるのは、健康面からも心配です。

A. これまでも図書室などを待合室として設定し、面談がある場合には読書や自習をして待機できるように配慮して参りました。今後は面談はないが部活動があり、かつ行き帰りに大幅に時間がかかる場合も待機できるよう、配慮します。ご家庭でも、自習用具などの準備をするようお子様にお声掛けください。ただ、待機場所には限りがあります。教員も、すべてつきっきりで監督することが難しい状況です。できる限り、一旦再登校をするよう、ご家庭のご理解とご協力をお願いいたします。

【11組】 4年ぶり 合同宿泊学習 in 上郷森の家

11組では実に4年ぶりの1泊2日宿泊学習でした。今年度は少しでも実施ができるように、密を避ける形で計画をし、3校ずつ3日程に分けて行いました。生徒は誰も経験したことがない個別級宿泊学習、ワクワクとドキドキのスタートでした。

初日は野毛山動物園へ。天候も何とかもち、たくさんの動物を見学しました。眠っているライオンに声を潜めながらじっくり見る姿やキリンの肌の色はクリーム色という事実には驚く姿がありました。班ごとに昼食をとり、いよいよ、上郷森の家へ。108段の階段には生い茂る木々や野生の虫がいっぱいで、悲鳴をあげつつ上った後の上郷森の家はとても嬉しさと喜びでいっぱいでした。きれいな部屋、2段ベッドに部屋の中で話が弾んでいました。夜の集いでは3校を一堂に会し、みんなで一つの円を作って歌った「僕のこと」では、全員の気持ちがひとつになった、ここでしか味わうことができない瞬間でした。2日目のレク、ボッチャ大会。班対抗チームで声かけながら一喜一憂し、班でのまとまりが強くなりました。上郷森の家を後にして、アースプラザへ。短い時間でしたが世界の民族衣装体験や楽器に触れました。帰りのバスでは、「楽しかった!」との声や「あつという間だった。もっといたかった」と名残惜しい声が多く聞こえてきました。家を離れての1泊2日、宿泊でしか味わうことができない、貴重な体験をすることができました。自分のことを自分でやる姿、リーダーとして班員に声かけをする姿、みんなと部屋で楽しく談笑する姿…学校とはまた違った場面でさまざまな姿を見ることができました。この経験を生かして、次は合同体育祭に向けてクラスみんなで力を合わせていきましょう!

生徒の感想より (一部抜粋)

- ・ 他と違った共同生活をしてコミュニケーションや人の前で話すことが苦手だったので合同宿泊学習に自分の目標をいかせたのですごく成長したなと思いました。
- ・ 思うことはありがとうございます。優しくしてくれた。
- ・ 自分でたてた目標で室長として責任をもって頑張りました。



【1年生】 ~ 一羽、一羽に込められた思い ~

平和学習の時間に「サダコ〜ヒロシマの少女と20世紀〜」について学びました。佐々木禎子さんはどんな思いで折り鶴を折り続けたのだろうか、禎子さんが通っていた幟町小学校6年竹組の同級生たちはどんな思いで原爆の子の像を作るための運動を始めたのだろうか、といったことに思いを寄せ、感想文を書きました。一部を紹介します。

☆禎子さん以外にも子どもから大人まで原爆で亡くなった人たちがいる事をもう一度、心にとめておきたいと思いました。また、ウクライナとロシアの戦争もまだ続いています。そこでもたくさんの人々が亡くなって、何か後遺症でも亡くなる人がいると思います。だからこそ、他人事とは思わずに、戦争についてもう一度考えていきたいと改めて思いました。(1組) ☆いつ人が死ぬかわからない、大切な人を失ってしまう、そんな兵器がこの世にあることが、本当によくないと思った。そんな兵器が使われた過去を忘れてはならないと思った。必死に生きようとしている人が死んでいく姿は、とても見ていられないものだと思うと、よりいっそう禎子のさびしさなどが伝わってきた。(4組)

禎子さんが折り鶴に込めた願いを受け止め、受け継いでいこうとする多くの感想文を目にして、未来を創り上げていくみなさんが生命の重みや平和の意味を考え、生きていくことができれば、きっと明日を信じられると思いました。

【2年生】準備の大切さ

「結果はコントロールできないが、準備はできる。できる準備をすべて終われば、準備にふさわしい結果がやってくる。」元メジャーリーガーのイチロー選手の言葉です。

8月28日(月)夏休み明けの初日、ちょっと大人になった生徒たちが登校しました。身体が大きくなった!学習や運動を頑張った!趣味に没頭した!など多くの話を聞き、有意義な夏休みを過ごしたのだと職員たちは実感し、再会を喜びました。

9月7日(木)8日(金)前期期末試験では、夏休みから用意周到に学習を進めて本番に臨んだ人、夏休み明けから全力で学習に取り組んだ人、普段通りのペースで取り組んだ人と様々なようです。

現在2年生は、総合的な学習の時間で、「平和について主体的に学ぶ校外学習」の準備をしています。平和について学ぶために見学場所をどこにすべきかを班で考えて、それをクラスの仲間に伝えるプレゼンテーション資料を作成中です。

自ら求めて学び、さらなる成長を遂げる2年生に期待しています。



【3年生】がんばれ!! 緑学年

中学校生活も残すところあと半年となり、卒業アルバムの写真撮影など、卒業を感じる場面が増えてきました。

部活動では3年間の集大成となる試合や大会、コンクールなどが行われました。結果はどうか、真剣な表情、一生懸命な姿、チームワーク、そしてなによりも最後まであきらめない姿は「かっこいい緑学年」そのものでした。この経験は、これからの人生での大きな支えや自信、誇りになることと思います。また、学校生活や学校行事に対する取り組みを見ていてもみんなで団結して取り組んでいこうとする姿はとても頼もしくも感じています。

これからの受験に向けてクラス一丸となって「進路」という目標に向かってほしいと思います。「がんばれ!緑学年」応援しています。

日吉台中学校のホームページです!!

学校からのお知らせ等を掲載しています。是非ご覧ください。

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/hiyoshidai/>

